

長野県住基ネット侵入実験批判

～ネットワークが危ないのではない～

センセーショナルな見出し

長野県が行った住基ネットへの侵入実験のニュースは、センセーショナルな見出しが並びました。

[長野県、住基ネット侵入実験結果を公表 - 個人情報の改ざんが可能?](#)

[住基ネット侵入実験 知事、危険性が明らかに 市町村へ再チェック求める](#)

[/長野](#)

[住基ネットのセキュリティは「平均以下」～長野県の報告](#)

[「個人情報危険な状態」長野県が住基ネット侵入実験の結果を公表](#)

内通者のもと、銀行の金庫前まで自由に出入りさせておいて、鍵をあげられた、と騒いでいるのと同じ

これから書く内容は、現時点で私が入手可能な情報からの判断であるということ、まず最初にお断りしなければなりません。

さて、今回の実験結果を大まかにまとめると

インターネットからは侵入できない。庁舎内LANからは、侵入できる。

わかりやすく言うと、これだけです。

庁舎内LANから侵入できるということは、本当に危険なことでしょうか？

長野県の発表通り、庁舎内LANから侵入できたとして、どういう事態が起きるかということ、庁舎内のパソコンを自由に使える長野県職員が住基ネットを悪用できる、ということに過ぎません。

[知事の発表](#)の中で、「誰でも容易に侵入できる」とありますが、それほど簡単に誰でも長野県庁舎内LANは使えるものなのでしょうか？

もし、そうなら、住基ネットに侵入する以前に、長野県内の情報はすべて書き

換え可能であり、そのことの方が重大問題ではないでしょうか。

仮に庁舎内LANが使えたとしても、管理者権限を取る方法はそれほど一般的ではありません。それはちょうど、鍵のピッキングを誰でもできるわけではないのと同じです。

侵入実験は犯罪

ある休日、家族とともに家をあけていて、帰宅した所、机の上に次のような紙がありました。

「君のうかが無用心じゃないかと心配して、侵入実験をしたら、トイレの窓から侵入できた。以後気をつけるように。友人Sより」

このようなことがあったら、みなさんはSさんに感謝しますか？

あるいは、小泉首相の身の安全が心配になったので、首相官邸にナイフを持って忍びこむ実験をした人がいたら、その人は賞賛されるべきでしょうか？

今回、コンピュータネットワークでの侵入ということと、実験と名がついていることで、犯罪行為である侵入が正当化されている気がします。

コンピュータネットワークにおいて、侵入を試みるとは、現実世界では鍵穴に針金を突っ込んであけようとしているのと同じです。その行為自体、許されるものではありません。

神戸の連続殺人をした少年は、殺人を「聖なる実験」と称していました。今回の侵入も「実験」の名の下に正当化されているのでしょうか。

実験といいながら、実験になっていない

今回の実験を実地でやる意味はあったのでしょうか。Windowsのバッファオ

ーバーフローで管理者権限を取る、ということなら、実地でやらずとも結果はわかります。

管理者権限をとっても、データベースのパスワードもあるはずですし、パスワードが判明しても、それが読み取りだけしかできないパスワードということもあり得ます。実際に書き換えてみないと、わからないのです。

実地でやらなくてもわかるはずの管理者権限を取ることは実際にやるが、書き換えについては実際にやらない、のは片手落ちです。

ただ、そこまでやると確実に犯罪になってしまいますね。

100%安全はなくても

携帯電話は、移動場所でも使えることから、誘拐などの犯罪で以前はよく使われました。しかし、デジタルになったために、追跡が容易になり、携帯を使うとすぐに居場所がばれてしまいます。

住基ネットは内部の者の犯行もあり得ますし、侵入者の犯行も考えられますが、すべての情報を記録すれば、犯行があっても必ず追いつめられます。絶対に侵入できない、ということウリにするのではなく、不正をあとで追跡できる体制があればいいと思います。

ハイテクを支えるのは、ローテク

私は住基ネットの是非を述べるつもりはありませんが、ネットワークが危ない、という宣伝や、侵入が許される風潮は困ります。

危ないのはネットワークではなく、パスワード管理や、侵入者をチェックする体制、職員のモラルです。ハイテクを支えるのは、ローテクなのです。